

公益財団法人日本文学振興会

平成 28 年度事業報告書

1. 平成 28 年 4 月 6 日（水）午後 3 時より、日本外国特派員協会にて第 47 回大宅壮一ノンフィクション賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

書籍部門

堀川恵子「原爆供養塔」（文藝春秋）

雑誌部門

児玉博「堤清二『最後の肉声』」（文藝春秋 4～6 月）

その贈呈式および懇親パーティーは 6 月 24 日（金）午後 6 時より日本外国特派員協会にて開催、受賞者に正賞 1 0 0 万円を贈呈した。

2. 平成 28 年 4 月 26 日（火）午後 5 時より、パレスホテルにて第 23 回松本清張賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

蜂須賀敬明「待つてよ」

その贈呈式および懇親パーティーは 7 月 1 日（金）午後 6 時よりパレスホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞 5 0 0 万円を贈呈した。

3. 平成 28 年 7 月 19 日（木）午後 5 時より、築地「新喜楽」にて第 155 回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 村田沙耶香「コンビニ人間」（文學界 6 月号）

直木賞 荻原浩「海に見える理髪店」（集英社）

その贈呈式および懇親パーティーは 8 月 26 日（金）午後 6 時より帝国ホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞 1 0 0 万円を贈呈した。

4. 平成 28 年 10 月 5 日（水）午後 6 時より、築地「新喜楽」にて第 64 回菊池寛賞選考顧問会を開き、下記の五件の受賞を決定した。

① 北方謙三

現代ハードボイルドの旗手と言われた著者が、十七年の時をかけ完結させた全五十一巻の北方版「大水滸伝」シリーズ。数多ある先人の水滸伝に正面から挑む斬新な解釈で平成の新たな読者を開拓した

② 熊本日日新聞

水俣病やハンセン病に関する調査報道、いち早くオウム真理教に迫ったルポなど、一貫して地域ジャーナリズムの担い手であり続け、本年四月の熊本地震でも自ら被災しながらその責務を果たした

③ 池上彰とテレビ東京選挙特番チーム

タブーを恐れず政治家に容赦ない質問や指摘を浴びせる池上氏のインタビューに加え、視聴者目線で候補者の経歴や活動をわかりやすく解説することにより、選挙報道に新たな地平を拓いた

④ 秋本治

一九七六年に連載を開始した漫画『こちら葛飾区亀有公園前派出所』を四十年間一度の休載もなく描き続ける。世相・風俗を巧みに取り入れ、上質な笑いに満ちた作品を本年二百巻で堂々完結させた

⑤ 森重昭

八歳時に被爆、戦後は一会社員として、独自に原爆投下後の広島調査・研究を続ける。その後、米国民も知らなかった十二名の米兵捕虜被爆死を明らかにし、米国大統領初の広島訪問に繋がった

⑥ 高橋礼華・松友美佐紀

リオ五輪決勝の最終ゲーム。土壇場から五連続得点のしなやかな逆転劇で国民を大いに魅了し、日本バドミントン界に悲願の金メダルをもたらした。その歴史的成果と東京五輪での活躍に期待をこめて

その贈呈式および懇親パーティーは12月2日（金）午後5時より帝国ホテル孔雀の間にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

5. 平成28年11月6日（日）「人生に、文学を。」オープン講座を、講師に村山由佳、西村賢太両氏を招き、東京大学本郷キャンパスにてとりおこなった。

6. 平成28年12月3日(土)「人生に、文学を。」オープン講座を、講師に小川洋子、葉室麟両氏を招き、関西大学梅田キャンパスにてとりおこなった。

7. 平成29年1月19日(木)午後5時より、築地「新喜楽」にて第155回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 山下澄人「しんせいかい」(新潮5月号)

直木賞 恩田陸「蜜蜂と遠雷」(幻冬舎)

その贈呈式および懇親パーティーは平成29年2月23日(木)午後6時より帝国ホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。